

2025 年度
動物実験に関する自己点検・評価報告書

2026 年 7 月

公益財団法人 がん研究会

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する機関内規程を定めている。 ☐ 機関内規程を定めているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 機関内規程を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 「公益財団法人がん研究会動物実験等取扱規程」、動物実験管理体制図
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 環境省の飼養保管基準と文部科学省の基本指針に則した機関内規程が策定されている。 公益財団法人がん研究会での動物実験および実験動物の飼養保管に係る業務は、機関長（理事長）の下で研究本部長に委任されることが規定されており、これに対応した組織管理体制図も整っている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当事項なし

2. 動物実験委員会

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合する動物実験委員会を設置している。 ☐ 動物実験委員会を設置しているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 動物実験委員会を設置していない。
2) 自己点検の対象とした資料 「公益財団法人がん研究会動物実験等取扱規程」、「動物実験委員会規程」、 動物実験管理体制図
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 機関内規程に基づき「動物実験委員会規程」を策定し、委員会の役割と運営、基本指針が求める 3 要件に合致する委員の構成が明確に規定されている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当事項なし。

3. 動物実験の実施体制

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、動物実験の実施体制を定めている。 ☐ 動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。

☐ 動物実験の実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 「公益財団法人がん研究会動物実験等取扱規程」、「財団法人癌研究会組換え実験安全規定」、動物実験計画書記入要領、動物実験計画書様式、動物実験計画（変更・追加）承認申請書様式、遺伝子組換え実験承認申請書様式、飼養保管施設設置承認申請書、動物実験室設置承認申請書様式、「動物室使用マニュアル」、「飼養保管マニュアル」、動物実験外部委託要領、発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関するガイドライン、ウイルス接種実験マニュアル、動物実験結果報告書、動物実験自己点検票、
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 取扱規程に則った各種様式と計画書記入要領が整備されて、遺伝子組換え実験を含めた実験計画書の作成方法が定められている。動物実験外部委託要領も整備され外部組織との連携体制も適正である。動物実験計画の変更と結果報告に必要な申請書等の様式も整っている。がん研究会飼養保管施設自体の「飼養保管施設設置承認申請書」の手続きもなされている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当事項なし。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めている。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めているが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制を定めていない。 ☐ 該当する動物実験を行っていないので、実施体制を定めていない。
2) 自己点検の対象とした資料 「財団法人癌研究会組換え実験安全規定」、遺伝子組換え実験承認申請書様式、動物実験計画書様式、動物実験室設置承認申請書、遺伝子組換え実験及び動物実験講習会（e-learning 講習）資料、「動物室使用マニュアル」、「飼養保管マニュアル」、発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関するガイドライン、ウイルス接種実験マニュアル、向精神薬試験研究施設設置者登録証
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。） 遺伝子組換え動物実験については、「財団法人癌研究会組換え実験安全規定」により、また、発がん物質等危険物の使用実験やウイルス接種実験については、発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関するガイドラインとウイルス接種実験マニュアルにより、申請方法を定めている。動物実験計画は、遺伝子組換え実験承認申請書を遺伝子組換え実験安全委員会で審査承認後に、さらに動物委員会でも審査確認することで、安全管理上注意を要する動物実験の実施体制が整備されている。

- 4) 改善の方針、達成予定時期
該当事項なし。

5. 実験動物の飼養保管の体制

1) 評価結果

- ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

「公益財団法人がん研究会動物実験等取扱規程」、「動物室使用マニュアル」、
「飼養保管マニュアル」、動物実験室設置承認申請書、飼育室飼育月報、飼育環境月報

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

飼育室飼養担当者による各飼育室の飼養状況の飼育月報と、施設の温湿度・室圧に関する飼育環境月報の提出が徹底されている。さらに、今年度の飼育月報の様式改訂により、実験動物管理者が飼育管理の状況や動物の健康状態等をより詳細に把握する管理体制が整備されている。動物実験室設置承認申請については、動物実験委員会の立入による審査と承認がなされている。

4) 改善の方針、達成予定時期

実験動物管理者による飼養保管状況の把握と管理については、さらなる改善に向けて検討を進めている。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

特になし。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に機能している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「公益財団法人がん研究会動物実験等取扱規程」、「動物実験委員会規程」、動物実験計画書、動物実験計画（変更・追加）承認申請書、遺伝子組み換え実験承認申請書、動物実験室設置承認申請書、発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関するガイドライン、ウイルス接種実験マニュアル、動物実験委員会議事録、動物実験結果報告書、動物実験自己点検票
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験委員会は、「取扱規程」と「委員会規程」に基づき開催され、以下の事項について審査し、議事録を作成している。審査結果は、本部長に答申して承認を受ける。 (1) 動物実験計画が指針等および本規程に適合していること。 (2) 動物実験計画の実施状況及び結果に関すること。 (3) その他、動物実験等の適正な実施のための必要な事項
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験の実施状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針に適合し、適正に動物実験を実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「公益財団法人がん研究会動物実験等取扱規程」、動物実験計画書、動物実験計画（変更・追加）承認申請書、動物実験室設置承認申請書、遺伝子組み換え実験承認申請書、動物実験結果報告書、動物実験自己点検票、発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関するガイドライン、ウイルス接種実験マニュアル、実験動物飼養保管状況の自己点検票
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験責任者は、承認された実験計画書に従い、適正な動物実験を実施している。 年度末には、各動物実験責任者から、動物実験結果報告書と動物実験自己点検票が提出され、動物委員会で実験実施状況の確認がなされている。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当事項なし。

3. 安全管理に注意を要する動物実験の実施状況

1) 評価結果

- ☒ 基本指針に適合し、当該実験を適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。
- ☐ 該当する動物実験を行っていない。

2) 自己点検の対象とした資料

「公益財団法人がん研究会動物実験等取扱規程」、動物実験計画書、動物実験計画（変更・追加）承認申請書、動物実験室設置承認申請書、「財団法人癌研究会遺伝子組換え実験安全規程」、「動物室使用マニュアル」、「飼養保管マニュアル」、実験動物搬入・搬出届、微生物定期モニタリング、発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関するガイドライン、ウイルス接種実験マニュアル、動物実験結果報告書、動物実験自己点検票、実験動物飼養保管状況の自己点検票

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

遺伝子組換え動物実験は、適正な拡散防止措置の取られた施設で行われ、「動物室使用マニュアル」と「飼養保管マニュアル」に従って安全管理上問題なく実施されている。遺伝子組換え動物の搬入と搬出は、実験動物搬入届・搬出届の管理によって適正に行われ、搬入搬出の際の微生物検査確認も徹底されている。さらに定期的な微生物モニタリング検査によって感染事故等の発生は報告されていない。発がん物質使用実験やウイルス接種実験もマニュアルに従って適正に実施されている。

4) 改善の方針、達成予定時期

該当事項なし。

4. 実験動物の飼養保管状況

1) 評価結果

- ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。
- ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- ☐ 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検の対象とした資料

「動物室使用マニュアル」、「飼養保管マニュアル」、発がん物質等危険物質を用いた動物実験に関するガイドライン、ウイルス接種実験マニュアル、微生物定期モニタリング、飼育室飼育月報、飼育環境月報、実験動物飼養保管状況の自己点検票、動物実験自己点検票、飼育室入退室予定表

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験施設の管理と動物の飼養保管は、「動物室使用マニュアル」と「飼養保管マニュアル」に基づいて適正に実施されている。飼養保管状況は、飼育室の入退室の状況と改訂された飼育月報や環境月報の報告を受けて、実験動物管理者によって適切に把握されている。微生物モニタリングは3ヶ月ごとに定期的に行われ、厳格な感染症対策が取られている。 実験動物飼養保管状況の自己点検票と動物実験自己点検票による確認もなされている。
4) 改善の方針、達成予定時期 実験動物管理者による飼養保管状況の実態の把握については、さらなる改善に向けて検討を進めている。

5. 施設等の維持管理の状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に維持管理している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「動物室使用マニュアル」、「飼養保管マニュアル」、微生物定期モニタリング、飼育環境月報、動物室空調機等定期点検報告書、動物室オートクレーブ法定点検報告書 実験動物飼養保管状況の自己点検票
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 飼育室の温度湿度は、空調の中央監視システムにより管理と記録がなされている。 空調機設備は、春と秋の年2回の定期点検により良好な状態に維持管理されている。 その他のオートクレーブ等の設備点検と消防設備点検も定期的の実施されている。 飼育器材の洗浄と滅菌再生や共通エリアの清掃消毒等の衛生管理は、専任の業務委託社員により行われている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当事項なし。

6. 教育訓練の実施状況

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 「動物室使用マニュアル」、「飼養保管マニュアル」

遺伝子組換え実験及び動物実験講習会受講者記録 遺伝子組換え実験及び動物実験講習会（e-learning 講習）資料 実験動物管理者の教育訓練修了証
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物実験講習会の受講は、動物実験責任者および実験実施者による動物実験計画申請の必須要件とされており 動物実験実施者全員が e-learning 講習を受講している。 さらに、実験動物管理者は、講習内容の監修のために、公私動協および日本実験動物学会等による教育訓練に参加し、最新の情報収集に努めている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当事項なし。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 評価結果 ☒ 基本指針や飼養保管基準に適合し、適正に実施している。 ☐ 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 ☐ 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 動物実験結果報告書、動物実験自己点検票、実験動物飼養保管状況の自己点検票 動物実験委員会議事録、動物実験講習会受講者記録、自己点検・評価事項チェック票、 動物実験に関する自己点検・評価報告書
3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。） 動物委員会による点検と評価は、基本指針に則り適正に実施され、その結果をホームページで公表している。ホームページには、「公益財団法人がん研究会動物実験等取扱規程」と「外部検証の結果」、「動物実験に関する自己点検・評価報告書」、「実験動物の飼養保管状況とその他」を公開している。「実験動物の飼養保管状況とその他」では、国動協および公私動協において、情報公開項目とされている「マウス年間使用数」、「マウス飼養数」、「動物実験計画承認件数」、「動物実験講習会受講実績」、「動物実験委員会の構成」の情報を掲載している。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当事項なし。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

該当なし。

「実験動物の飼養保管状況とその他」

2025 年度(2025 年 6 月～2026 年 5 月)

2025 年度マウス年間使用数

(単位：匹)

部署名	マウス年間使用数	備 考
細胞生物部	2,253 匹	NSGマウス 18 匹 C57BL/6JJclマウス 385 匹 MCH(ICR)/Jclマウス 990 匹 C57BL/6NJclマウス 260 匹 遺伝子改変マウス 600 匹
がん生物部	79 匹	NOD-SCID 22 匹 Balb/c-nu/nu 57 匹
細胞老化研究部	733 匹	BALB/c 18 匹 C57BL6 620 匹 BALB-/c nu/nu 25 匹 NSG 70 匹
がんエピゲノム研究部	158 匹	遺伝子改変マウス 57 匹 BALB/c-nu/nu 62 匹 NSG 14 匹 BALB/c 25 匹
発がん研究部	1,611 匹	C57BL/6 890 匹 BALB/c 76 匹 BRJ 50 匹 遺伝子改変マウス 575 匹 病態モデルマウス 20 匹
がんゲノム研究部	706 匹	ICR-nu+マウス 5 匹 NSG マウス 476 匹 NOD-SCID マウス 225 匹
基礎研究部	2,957 匹	C57BL/6NJ or 6J 1,204 匹 BALB/c-nu/nu 524 匹 NOD-SCID 2 匹 SCID beige 135 匹 NSG 90 匹

部署名	マウス年間使用数	備 考
		BALB/cJ 58 匹 遺伝子改変マウス 944 匹
分子薬理部	612 匹	BALB/c-nu/nu 422 匹 BALB/cJ 39 匹 BALB/cAJcl 151 匹
分子生物治療研究部	546 匹	BALB/cJ 15 匹 BALB/c-nu 142 匹 C57BL/6J 231 匹 NSG 128 匹 NOD SCID 30 匹
ゲノム研究部	240 匹	BALB/c ノードマウス 120 匹 SCID Beige マウス 30 匹 BALB/cJ 60 匹 SHO マウス 30 匹
臨床部	18 匹	遺伝子改変マウス 18 匹
がん免疫制御プロジェクト	1,371 匹	129S2/SyPasCil 628 匹 C57BL/6J 277 匹 NSG 178 匹 BALB/C 288 匹
分析生化学研究部	6 匹	BALB/c-nu/nu 6 匹
分子免疫研究部	90 匹	C57BL/6J 90 匹
合 計	11,380 匹	

動物実験施設マウス飼養数： 4,200 匹（2026 年 5 月 31 日時点）

動物実験計画承認数： 14 件

動物実験講習会受講実績

受講方式： e-learning

受講者数： 202 名

動物実験委員会 委員： 7 名

委員の構成：

動物実験等に優れた識見を有する者 2 名

実験動物に優れた識見を有する者 2 名

その他学識経験を有する者 3 名